

絶えず祈りなさい

宮川 忠大 伝道師

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。

どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

I テサロニケ5:16~18

祈りは信仰生活においてとても大切に欠かせないものです。皆さんの日常生活において、祈りはどのくらいの割合を占めているでしょうか。

神学校に入る前の私の「祈りの時」は、恥ずかしながら食前の祈りくらいでした。それもほんの10秒くらいの形式的なものでした。でも今では何をするにも「祈らずにはいられない」生活に一変してしまいました。特に悩み、不安のときに「神さま、助けて」と祈れることがどれほど心強いことかということを実感しています。

もちろん、嬉しいことがあったときも「神さま、ありがとう」と感謝します。勝手な願いをして、やっぱり叶えられなくなった時は「神さま、ごめんなさい」と祈ります。でも、自分の祈りをよく考えてみると、とても自分勝手な都合の良い祈りばかりだと反省しきりです。

祈りは「何かがあったとき」にだけするのではない、ということ聖書は教えています。「絶えず」祈ることが大切だと言います。さらに、その絶え間ない祈りは「いつも喜んで」いる心から生まれることも教えています。そして喜びの中から生まれる絶え間ない祈りは、「すべての事」を「感謝」へと導いてくれるのです。これが「祈り」の本質です。

しかし、ともすると私たちの祈りは、神さまへの「要望」が中心になっていないでしょうか。私が祈るようになった最初の頃は、お願いばかりでした。そんな時、祈りについて「どうしても願い事をしたい時には、2つ感謝をして一つお願いをするといいよ」と教えてくれた人がいました。お願い1つのために、2つくらいなら感謝を見つけるのは簡単です。でも、5つお願いしたいことがあるときには、10個の感謝を見つけなければなりません。でも、この「感謝する」ということを続けているうちに、不思議と「お願い」がなくなっていくのです。

「こうして欲しい」という欲望は、現状に満足していない心が生み出すものです。たとえ状況がどんなに悪くても、

自分が望むものが手に入らなくても、そのこと自体が、神さまが与えてくださっているものなのだと思います時、感謝は生まれるのです。どんな困難の中にあっても、「神さまが共にいてくださる」ことが喜びであると知っている人は、感謝ができるのです。

「絶えず祈る」ことは、難しいことではありません。朝起きたことに感謝、ご飯を食べられることに感謝、話せることに感謝、ありとあらゆることが感謝になります。その度に「神さま、ありがとうございます」という祈りができるのです。

では、「こうしてください」という祈りはいけないのでしょうか。でも、イエスさまが教えてくださった「主の祈り」にだって「こうしてください」はあります。「主の祈り」は、お願いだけの祈りです。

もちろん、私たちは祈りの中で「お願い」することを許されています。ただし、条件があります。それは「自己本位の願いではないこと」です。私たちが求めるべきものは「神の国」です。「主の祈り」は、神の国を求める祈りです。

では、神の国はどんな国でしょう。神の国に住む人は、神さまと同じように相手のことを思う心を持った人です。ですから、自分の欲望を満たすためのお願いはしないのです。自分のための願いではなく、相手のための願いをします。私たちが願うことは、相手のことを思うときに生まれる、相手のためのお願いなのです。

もう一つ、私たちに神さまに「嘆く」ことも許されています。聖書の中には嘆きを通り越して、「これは神さまに対する文句じゃないの」と思えるような祈りまであります。でも、それも許されているのです。けれども、やはり条件があります。それは「嘆く相手が神さまだけである」こと、そして「嘆きを解決してくださるのは神さまだけである」という確信を持っていること、さらに「神さまに従う」ことです。ダビデは散々神さまに嘆きました。でも、神さまだけに救いを求めました。そして過ちを犯した時には、真実に神さまに立ち帰り、犯した罪を悔い改めたのです。

祈りは、天の父なる神さまとの会話です。私たちが普段、会話をするように、神さまも普通に、感謝することも、お願い事も、文句を言うこともすべて許されているのです。でも、それは自分中心の思いではいけません。いつも「これは自分の思いかな」「神さまが喜ぶ思いかな」ということを考えながら祈る時、「私たちが祈るべき祈り」が見えてくるのです。